

り、靈元法皇、享保六年九月廿七日御幸有て、其後、年毎に其事ありしに、東山院に至りては絶たるを、又古の如く宮殿を改め造られて、めづらかなる事ならんかし。

〔類聚國史帝王三十二〕天長二年十月己酉、太上天皇○嵯峨遊獵于交野、左大臣○藤原冬嗣陪從焉、遣中納言清原真人夏野并藏人三人令供奉、

〔續日本後紀仁三〕承和元年十月壬午、後太上天皇○淳和幸雲林院、遊獵北郊、有内裏藏人所隼從之、

〔續日本後紀仁五〕承和三年二月戊子、先太上天皇○嵯峨遊獵河内國交野、

〔續日本後紀仁六〕承和四年十月戊午、授從五位上百濟王慶仲正五位下、正六位上百濟王忠誠從五位下、先太上天皇○嵯峨自交野遊獵所有諷旨、因所叙也、

〔西宮記臨時五〕禁野 交野以百濟王爲檢校

〔續日本後紀仁七〕承和五年十一月癸未、先太上天皇○嵯峨先御冷泉院、次御神泉苑、放隼擊水禽、天皇獻御馬四疋、鷹鷄各四聯、嗅鳥犬及御屏風種々、翫好物、授無位源朝臣生從四位上、從五位下滋野朝臣貞雄從五位上、從四位上笠朝臣繼子正四位下、從五位上内藏宿禰影子從四位下、無位菅原朝臣閑子、大中臣朝臣岑子並從五位下、以當日陪奉先太上天皇、近臣侍女之類也、賜扈從諸臣、及外記官史内記等祿各有差、

〔扶桑略記宇多二十二〕寬平元年十二月二日、甘南扶持還來云、去廿九日申時始到嶋下郡○攝津審問事由、郷人語云、太上天皇○陽成御此郷、備後守藤原氏助之宅御在所也、率若于從卒、亂入此宅、家人士女或遁亡山澤、或逃迷道路、氏助之宅無有一人、此爲狩取安倍山猪鹿也、而夜以松火炬、時臨暮之間、還御此宅、但率童子十二人、厩舍人二人、悉著武裝、帶弓矢、相分前後、騎馬行列云々、今日以伴山爲院禁野、宇治繼雄爲專當、勝示路頭、廿四日辛巳、左大臣源朝臣融奏曰、臣之別業在宇治郷、陽成帝幸其處、悉破柴垣、朝出涉獵山野、夕還掠凌郷閭、